

シンボルマークをデザインして



三笠産業が歩んできた60年間。この創業以来の輝かしい歴史は、これからいかなる時代を迎えようとも栄光の前進を絶えることなく続けて欲しい……。

不死鳥の翼は強くたくましく、さらに雄々しくはばたき天翔けるであろうことを信じ、その希望をこめて。

永井 郁

Mikasa NEWS

三笠ニュース

●あなたと三笠をむすぶホット情報●

PR句報/年4回発行
発行所 三笠産業株式会社
郵便番号101 東京都千代田区猿樂町1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530

三笠産業 創立60周年

新世紀へ着実な第一歩を

取締役社長 京谷 達也

私ども三笠産業株式会社は、この4月8日をもって創立60周年を迎えました。代表者として深い感慨を覚えずにはられません。およそ企業の歴史というものは、ゆれ動く経済社会のリズムの中で年々歳々積み重ねられてゆくものでありながら、しかしその道筋は決して尋常一様ではなく、人間の貴い汗と知恵の集結過程であり、時には人間を超えて正体不明の生きものの歩みさえ感じることもあります。私ども三笠産業の社歴を顧みますと、戦前戦中戦後という激しい時代時勢の変遷の中で、60年の歴史を刻み歩んでまいりました。20世紀がスタートした1901年(明治34年)ミナトヨコハマ生まれの京谷弘道が、36才にして三笠貿易商會を創設したのは昭和

和12年4月8日。その3ヶ月後に蘆溝橋事件で日中戦争が始まり太平洋戦争へ突入、戦後の混乱の中で会社は幾度もの変遷と困難に遭遇しましたが、創業社長・京谷弘道の強運と逞しい意志・指導力によって維持することが出来たのでした。特殊建設機械メーカーを目指して社名も三笠産業と改め、社長ともども諸先輩の不撓不屈の情熱、国土建設に貢献しようという誠心、時代を先取りする先見性が、三笠発展の礎になりました。

しかし弊社の今日がありますのは、何と言っても皆々様のご支持とご後援の賜にほかならず、ここに深く心底からの感謝を申し上げます。と同時に今日から踏みはじめた三笠の新しい歴史に向けて、より一層のご支援ご厚誼を賜りま

すようお願い申し上げます。21世紀がたとえどんなに不透明な世紀になろうとも、私たちは先ず信義を重んじ誠実であることを誓って、着実に成果を積み重ねてまいりたいと念じております。堅実経営の理念を志と致します。志とはサムライの心と書き、武士は義をもって第一とし、義とは我を美しくはの意味だと聞きました。古ばけた文字解釈とお笑いかもしれませんが、私は21世紀にむけて何故か新鮮な思いでこの文字を見つめます。

三笠産業60周年にあたり、さらなるご愛顧お引き立てのお願いを申し上げましてご挨拶とさせていただきます。



三笠60年のあゆみ

1930年代

- 3月三笠貿易商會を設立し、機械工具の輸入を開始、同年7月社名を三笠商事株式会社と改称する。(1937)
- 社名を三笠機械工業株式会社と改称し、板橋に工場を建設、製材木工機械およびフレキシブルシャフト研磨機の製造とコンクリート振動機の試作を開始する。(1938)

1940年代

- 空襲による戦禍を避けるため工場を群馬県館林町へ移転する(1944)
- 群馬県館林町小林製作所と業務提携開始(館林工場の前身となる)(1948)

1950年代

- 社名を三笠産業株式会社と改称し中央区銀座に本社事務所を移転。墨田区の長谷川製作所を専属サービス工場とする(春日部工場の前身)(1950)
- 本社事務所を中央区八重洲に移転。大阪の株式会社小野製作所を関西総代理店とする(1952)
- 板橋区、厚木町、館林町に疎開中の各工場を閉鎖し館林市大街道に新工場を建設する(1954)
- 株式会社小野製作所との合併による三笠建設機械株式会社を大阪市に設立(1957)
- 協力工場、資材納入業者による笠友会組織される(1957)

1960年代

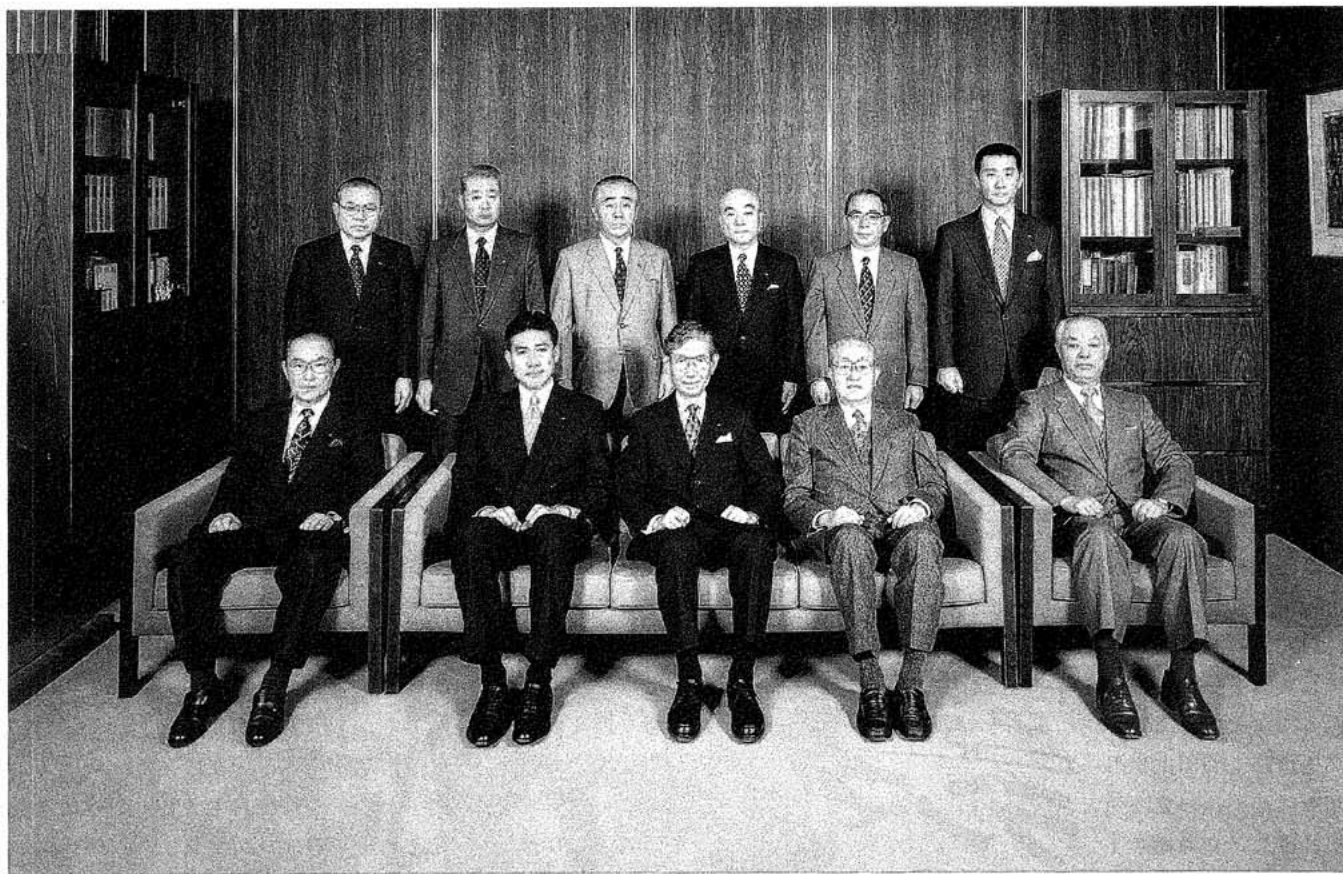
- 埼玉県春日部に三笠春日部工場を新設(1962)
- 千代田区猿樂町に本社ビルを新築(1963)
- 三笠ニュース創刊(1963)
- 東南アジア各国への輸出が活発となる(1964)
- 春日部工場内に技術研究所を建設する(1968)
- 欧米及び太平洋諸国へ本格輸出開始(1968)

1970年代

- 札幌出張所を開設(1970)
- 館林工場を近藤工業団地に新築移転(1971)
- 仙台出張所を開設(1972)
- 10年勤続社員の海外視察旅行始まる(1973)
- 埼玉県白岡町に技術研究所を新築移転(1977)
- 新潟出張所を開設(1979)

1980年代

- 創業者京谷弘道没す(1983)
- 札幌出張所新築移転((1983)
- 東京三笠レンタル会設立(1984)



- 春日部工場、豊野工業団地に新築移転((1985)
- 東北三笠レンタル会設立(1985)
- 北海道三笠レンタル会設立(1986)
- 国際建設機械見本市(bauma)に初出展(1986)
- 部品サービスセンター開設(1987)
- 1990年代
- マイコンパイプブレーター発表(1990)
- 長野営業所開設(1992)
- 新潟営業所新築移転(1992)
- 物流センター開設(1992)
- 静岡営業所開設(1993)
- 高崎営業所開設(1994)
- 横浜営業所開設(1995)

益々のご厚誼をお願い致します(三笠産業役員一同)

前列右から

常務取締役 荻本喜代治
監査役 長谷川 茂
代表取締役社長 京谷達也
取締役副社長 京谷弘也
専務取締役 松下一男

後列右から

取締役 吉田啓一
取締役 佐瀨行松
取締役 大沢文夫
取締役 小森 勲
取締役 斉藤一夫
常務取締役 高野長四郎

新製品

自動車用無鉛ガソリンで動く...

4サイクルエンジンランマー

現在三笠では、50kgタイプの4サイクルエンジンを搭載したMT-50F型タンピングランマーを生産しておりますが、お客様より4サイクルエンジン付きで、より輾圧力の有るランマーをとのご要望にお応えし、この度MT-72FW型タンピングランマーを開発致しました。

エンジンはランマー専用として新たに開発した、4サイクル OHVエンジンを搭載しました。このエンジンは現在の汎用エンジンの中で最も排ガスのきれいなエンジンで、排気の煙も少なく音も静かです。更に燃料消費が少ない、経済性に優れたエンジンです。しかも自動デコンプの採用により、非常に簡単にエンジンを始動する事ができます。また新たに開発されたメカニズムにより、全方向に90°まで倒してもエンジンオイル、キャブレターからの燃料漏れを防止しました。(但し、横倒しにする場合は、安全の為燃料コックを閉じると同時に燃料タンクキャップから燃料の漏れの無い事を、確認してください。)ランマーへのエンジン取り付けフランジは、耐久性に優れたディーゼルランマーと共通の新フランジを採用し、エンジンを下から支える事無く本機に直結しました。

エアクリーナーは、メンテナンスの手間を省きエンジンの寿命を延ばすため、すでに2サイクルエンジン搭載ランマーで定評のある、三笠オリジナルのダブルクリーナーを標準装備しました。またハンドルの両側及びエンジン下側にはプロテクターを設けましたので、運搬時や溝などの狭い場所でもエンジンを傷つける事無く作業をすることができます。更にハンドルの先端には、

トラックなどへの積み下ろしに便利なローラーを設けました。

フートには従来の木製のフートに代わり、MT-72FWに合わせて開発した、耐久性、対候性に優れたプラスチック製を採用しました。ランマー本体は、すでに市場で評価を頂いてい

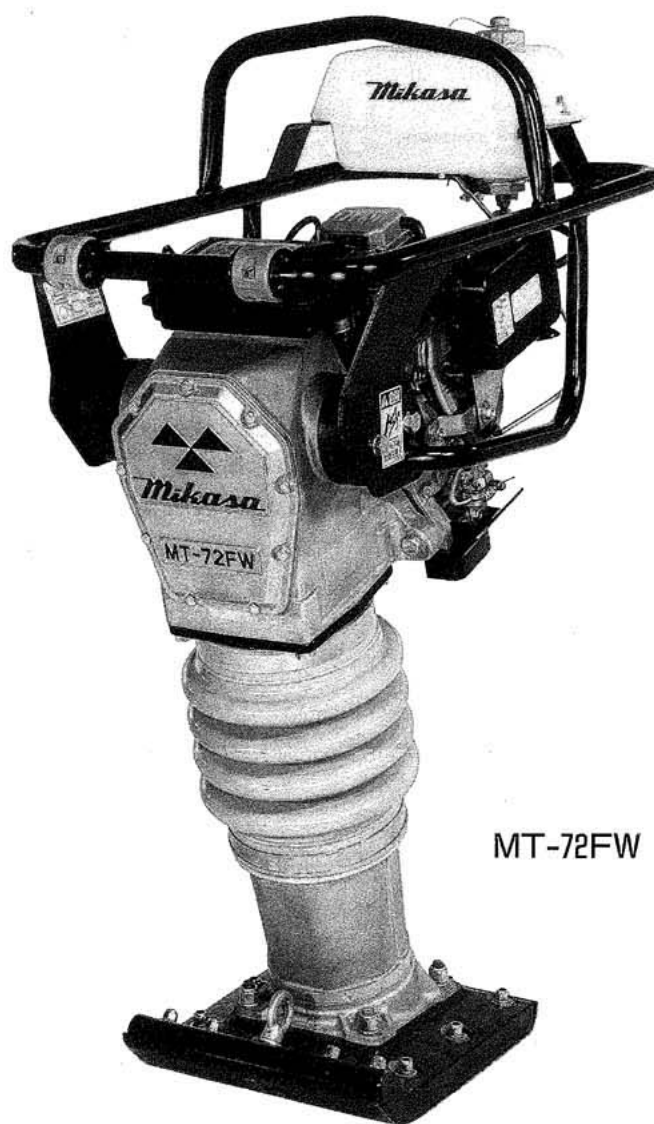
るMT-76Dと同様の機体を使用することで、優れた耐久性と輾圧力そして軽量化により、高い機動性を可能としました。

以上のように、輾圧力、安定性に優れ、更に新たな機構を盛り込んだ新型4サイクルOHVエンジンを搭載致し

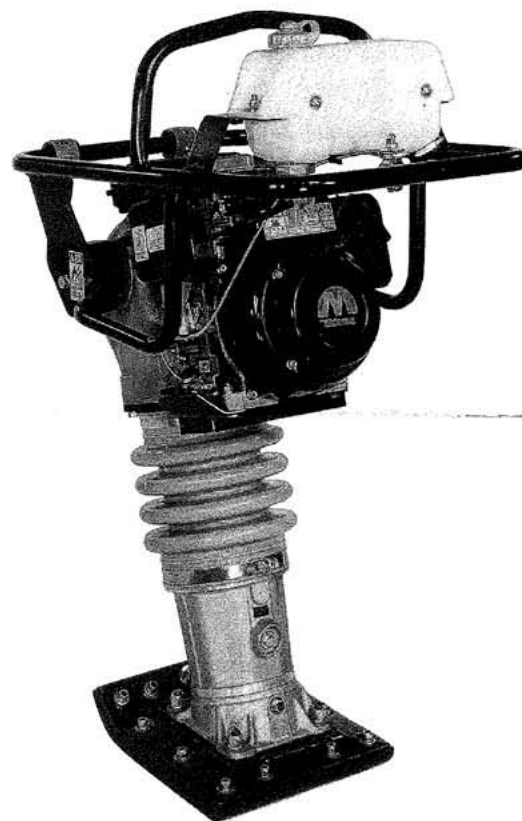
仕様

機体寸法 (mm)	全高	1,045
	全幅	410
	全長	720
装備重量(kgf)		71
衝撃板の寸法(mm)	幅 X 長さ	285 X 335
衝撃板のストローク(mm)		50~85
打撃数(打/分)		640~680
打撃力(kgf/打)		1,200~1,400
使用エンジン	型 式	ロビン EH20 4サイクルOHV式ガソリンエンジン
	最大出力	3.5PS/3,600r.p.m.
	燃 料	無鉛レギュラーガソリン
	潤 滑 油	自動車用ガソリンエンジンオイル SE級以上 SAE10W-30
	燃料タンク容量	2.5リットル

ましたMT-72FW型ランマーを、従来のランマーと同様にご愛用頂きますようお願い申し上げます。



MT-72FW



弊社の60周年にあたり、長年にわたりご愛顧を頂いている主力機種の一つである三笠タンピングランマーのこれまでの経緯をご紹介します、更なるご理解とご愛用をお願い申し上げます。

MTR-60型を発表したのが1960年(昭和35年)。東京オリピックをひかえ都内至る所が工事中で首都高速道路、羽田浜松町間モノレール、東海道新幹線など交通網の工事盛んになる頃である。その頃はまだ路盤、基礎工事などで締め固

めにタコ突きという木製の円柱に取っ手を付けた物で締め固めを行っているのが見られた。

ガソリンランマー、ジャンプランマーと呼ばれるタコ突きを機械化したような円筒形の輾圧機も他社では製作されていた。ジャンプ量が20cm近くもあ

り、かなりの打撃力を有していたようであるが毎分数十回と打数が低く扱い難いこともあった。

路盤などの締め固め機械として弊社ではMVCS4とよぶ400kg近いパイプロコンパクターを製作していた。現在の油圧式ではなく小型の戦車を思わせる機械式切り換えの前後進振動輾圧機であった。

MTR-60型ランマーはその名の通り重量が60kgを少し越え、エンジン直結型のクランクとスプリングシリンダーの組合せで、輾圧板の上下振動で土を締め固める現行のランマーの、弊社では初めて商品化された機械であった。2サイクルエンジンを搭載し毎分600から700の打数で輾圧した。建築の基礎グリ石等の輾圧にも使われ前述の社会的背景もあり、高い需要に支えら

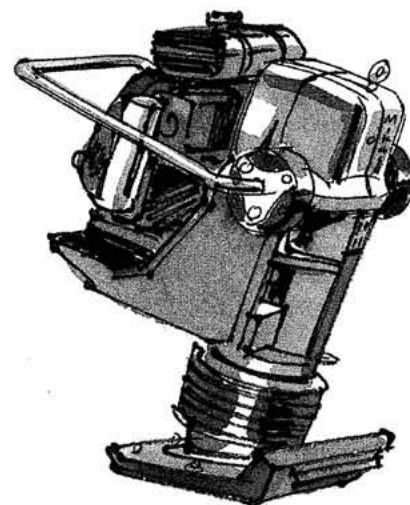
れ、1967年(昭和42年)まで生産が続けられた。

MTR-60型の後、MTR-160型、重量160kgベルト駆動型。MTR-120型、重量120kgをこえたエンジン直結型(現在カタログにある120型のものではない)を発表したが、MTR-160型はベルト駆動調整や重さそのもの等で扱いにくさがあり普及しなかった。MTR-120型は基本的には現在のメカニズムであったが、現在弊社の独特の機構である入力ギアをクランクギアの下部に設置して背高を押さえる設計ではなかったため背が高いことと、やはり120kgでは重く扱いにくいということでも輾圧力を優先するユーザーのみに需要に限られてしまった。

MTR-60型でランマー工事の世界に入り、それまでのコンクリートパイプレーターやフィニッシャーなどコンクリート機械に加えてパイプロコンパクターや新たに開発していたタンピング

ローラーなどの道路機械、輾圧機機種の分野の経験も出来た。

MTR-60型には弱点があった。エンジンにガバナー(定回転機構)が付いていないため、调速レバーのセットを動

Mikasa
ランマーあれこれ...三笠
ランマーの
変遷

ニューオリンズを訪ねて ——壮観ARA展示会の三笠製品

愛煙家の嘆き

最近、航空会社によって全席禁煙であるとか、到着地の空港内では一切たばこは吸えないとか、喫煙者にとっての海外出張は、ますます居心地が悪くなってきている。特に、米国内での乗り換えに際して、空港内で缶詰にされた上、更に数時間のフライトは自然と忍耐力を養われる。

今回はロスアンゼルス経由で、デルタ航空に乗り換え、目的地であるニューオリンズ入りした訳だが、乗り継ぎのターミナル移動で、空港の外に出た一瞬が、束の間喫煙タイムであった。2年も前の話になるが、ロスからマイアミ経由でアルゼンチンへ行く飛行機に乗った時などは、マイアミからいざ出発と言う段階で、翼から燃料が漏れているのが分かり修理に5時間も掛けたあげくフライトはキャンセルされ、10数時間の禁煙を強いられた。そんな時には、このままたばこを吸うのを止めてしまおうかと考えさせられる。社会的にも嫌煙権が大きく認められ、喫煙者は肩身の狭い思いをしている昨今だが、アメリカへ行くたびに喫煙者のささやかな主張も少しは認めてほしいものだなと感じる。

花の首飾り

毎年開催されるARA SHOWには担当になって初めての出張であった。過去には、ヒューストン、アトランタ、オーランド、そして昨年は、ディズニーランドのあるアナハイムと、米国の展示会は家族も楽しめる所を選んで行われており、今回のニューオリンズも次の週から行われる花祭りを前に、夜も遅くまで賑わいを見せていた。人々は花の首飾りを首にかけて町を歩く。女性はそれをかけると幸せになれるという言い伝えがあり、特に若い女



性は先を競って集めている様子で、男性からSHOW ME YOUR TIPSと、からかわれながら、巻ききれない程幾重にも首飾りをかけた女性を見かけた。

ARA SHOW

41回目を迎えるARA SHOW(米国レンタル協会主催)は、2月2日から5日迄の4日間、テキシーランドJAZZ発祥の地であるニューオリンズで開催された。この展示会は、アメリカレンタル協会の会員であるサプライヤーとレンタル会社の間で開催される展示会で、今年の米国の建機動向を占う上で最も重要な時期に行われる小型建機としては最も規模の大きなものである。特に、サプライヤー側からすると、新製品を発表する機会として欠かせない。

米国総代理店であるマルティクイップ社(MQ社)では、この展示会に先立ち、前日にホテルの一室を借り切り、全米に広がるセールスマン約50名を集めセールスミーティングも実施。

三笠は今年創立60年を迎えるが、MQ社も建機販売店として25年目を迎え、当初から三笠の代理店として確固たる基盤を築き上げた会社である。

近年では商品群も多岐にわたり小型建機に関する限り、殆どの商品を供給できる迄になった。

展示品は、ランマー、プレートを中心としたコンパクション関係、ホワイトマン製品を中心にしたコンクリート関係、発電機関係及びその他のライト

エキューPMENT関係と大きく分けられるが、その中でも昨年秋から全米向けに大々的に売り出した三笠の分離給油ランマーには一段とスポットが当てられた展示になっていた。

又、ディーゼルランマーを2機種揃えて発売しており、これは世界的にも三笠だけであり、前後進コンパクターも200kgから500kgのシリーズがズラリと展示されているのを見ると壮観な思いであった。

レビン社長のコメディークナイト

2月3日の夜はコメディークナイトが催された。これは、MQ社の関係者及びそのディーラー、ユーザーを対象にホームレスへのチャリティーを行うもので、1,200名入る会場は満員で非常に盛況であった。レビン社長自らが最初にコメディークを披露し、他のコメディーク2名によるジャグリングや腹話術で大いに会場を沸かせた。仕事に対する前向きな姿勢と、エンターテイメントとしての両面を持つレビン社長の魅力に惹かれて、ディーラー、ユーザーがついて来てくれているのであり、25年もの長い間小型建機業界をリードして来れたのだと再認識させられた。

もっとも私にとっては話の内容が早過ぎて理解できないのが非常に悔やまれ、分かったような顔をして笑うのもつらいものがあつた。

宿泊先のヒルトンホテルには、毎夜スイートルームを借り切っておりディーラー、ユーザー及びセールスマンたちの社交場になっている。彼らは会場に一日中立ち通しの上、精力的に動き回った後でも、夜の更けていくのも忘れているかのように、ワイワイいつまでも賑やかに歓談していた。

ある優秀セールスマンの話

フロリダで、昔、三笠のR245前後進コンパクターを一年間に100台以上売ったことのあるMQのセールスマンだった人から苦労話も聞かされた。ケーブルの問題で売っては客に呼び出

され、三笠の技術者とサービスキャラバンをやったそうだ。時代とともに、製品は大きく変わり、今やシステムも油圧化され非常に完成度の高い商品になっている事など既に独立してしまっている本人は未だ知らない。建機である以上壊れないとは言えないが、壊れ難い機械を提供する事はできる。もう一度チャンスを買ひ、過去のイメージを払拭する為にもデモの約束を取りつけて別れた。

ニューオリンズのカキ

ニューオリンズは、クレオール料理が有名である。特にこちらでは、カキがうまい。日本のカキのように、身が貝殻に薄くへばりついているのではなく、貝肉がこんもりと盛り上がっており、これは感動的にうまい。しかし、生のカキに旅行者は良くあたらしい。貝肉の膨らんでいるものほど当たるのではないかと話しながら、皿一杯に出された生のカキを慎重に選びながら食すのも楽しい一時であった。暗いレストランの中では分からなかったが、翌日、ショウウィンドーに並んでいるカキを見て、沼地で取れたかのように貝殻は泥だらけで、あれを食べたのかと思わず腹の周りをさすってしまった。又、こちらでは、あの獰猛なワニのアリゲーターも食べてしまう。



味は、淡泊で適度に脂がのっており、ゴツゴツと山形になって出てくるステーキは食べる気はしないが、暗いレストランの中で唐揚げにされて出されたら鶏肉と言われても分からないかも知れない。

わずか3日間の滞在であったが、展示会の成功を祈り、ニューオリンズを後にした。

海外営業部 田島記

かされてしまうと回転が上がりすぎて内部の歯車やスプリングに故障が生じた。当時の2サイクルエンジンはノンガバナナーが普通であったのである。

1966年(昭和41年)頃からこのいわゆ

る60ランマーの改造を行った。昭和42年にMTR-80型、およそ87kgのランマーをMTR-60にかえて発売した。弊社の現行ランマーの基本モデルである。2サイクルエンジン直結型、入力ギアを

クランクギアの下部において背高を押さえる方法、エンジンにはメカニカルガバナナーを内蔵し一定回転をキープ、輾圧力の負荷の変動にも安定した運転ができること等々、その他強度耐久面

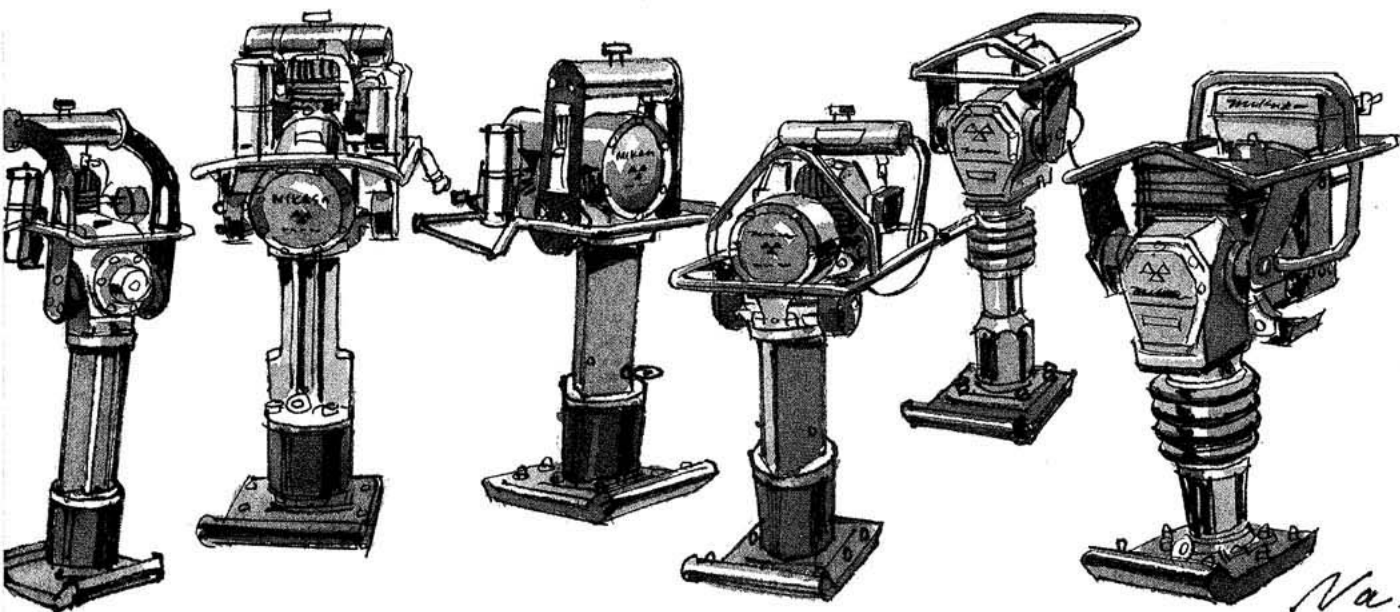
に改良設計を施しそれが現在に至っているのである。

この時富士重工業(株)にはガバナナー設置やキャブレーター機能をランマー用にセッティングし直すなど実験と試行錯誤の繰り返しの途中で協力して頂いたことを付記しておきたい。

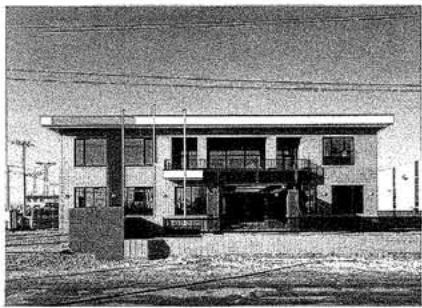
MTR-55型ランマーができたのはその後である。いまのMTR-60S型の前身である。

以上は潤滑方法がグリース給脂式である。

昭和58年オイル潤滑式のランマーを発表した。MT-50型、いまのMT-50Wの前身である。これはエンジン直結駆動装置部は同じであるがスプリング部フット部の構造が変わり、カタログでお判りのように作業輾圧板にオイルパン部を設置、スプリングシリンダ部を包む構造になっている。上部に上下運動部のベローズを配置して傷つきやすい路面から遠ざけて (次ページへ)



共成レンテム本社・工場 帯広営業所を新築落成



雄大な北海道、帯広市に本社をかまえ、日頃弊社でも大変お世話になっております(株)共成レンテム様(社長長谷川政吉氏)では、今までひとつの建物にありました本社及び帯広営業所を分けて同じ敷地内に本社ビルと帯広営業所のふたつの事務所を2月17日に同時にオープンされました。



長谷川社長

同本社ビルの所在地(帯広市西18条北1丁目)は滝川市と釧路市を結ぶ主要幹線道路である国道38号線に面し、好立地に位置しております。本社ビルは2階建て、広さ約1,200㎡もありゆたかりした設計となっております。

(株)共成レンテム様は昭和36年に設立され、道内36カ所の他に本州13カ所、合計49カ所の営業所を擁し、全国的な規模でレンタルを中心とした営業活動を行っております。

三笠製品も新製品をいち早く導入され、拡販に多大なご協力を頂いております。

最近ではレンタルのみならず販売、修理にと積極的に活動され、展示会なども各地で積極的に行っており、着実に業績を伸ばされております。

なお、本社ビルの落成式は5月中旬に予定されているとのことです。最後に(株)共成レンテム様の長谷川社長様はじめ社員の皆様のご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

札幌営業所 向成記



(株)キムラ 月寒ドームで ホームビルダーズショー

昨年50周年を迎えられた(株)キムラ様(本社 札幌市東区北6条東2丁目)では、去る3月5日、6日の二日間、札幌市豊平区の月寒グリーンドームにおいて、盛大に展示会を開催。

(株)キムラ様は、建築資材、機器、機械を中心に道内一円をはじめ本州にも東北、関東、甲信越に6カ所の営業拠点を置き、卸し販売業として着実に業績を伸ばされております。

当日は大工さん、工務店さん、土木業者さんなどのユーザーさんが各地よりバスで展示会場に続々と到着され、外は雪一色であるが会場内は熱気でムンムンしておりました。お楽しみ抽選会などのイベントが行われ、なごやかな雰囲気で開催されました。

三笠製品もランマー、前後進コンパクター、ハンドカッターと多数ご成約を頂きました。これもひとえに(株)キムラ様の木村社長を始め社員の方々のおかげと感謝する次第であります。

(株)キムラ様の今後益々の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

札幌課 向成記

ニューナカミチ 感謝展示会盛大に開催

去る1月18日(土)、19日(日)の両日、群馬県高崎市問屋町の高崎問屋街センターに於いて『ニューナカミチ感謝展示会』が中道機械産業株式会社・北関東営業部の8営業所合同展示会として行

フを伸ばすようにしている。誤解のないように言っておくとエアクリーナーの掃除は必要なので、そう頻繁にしくなくてもよいということである。

もう一つがエンジンの選択肢を広げたと言う事である。これまでの2サイクル混合油だけから、4サイクルと同じようにガソリンとオイルを別々に行う分離給油型、普通の自動車と同じような4サイクルエンジン、重機と同じ燃料管理が出来るディーゼルエンジンと四つのエンジンタイプを選ぶことが出来る。この事は技術的可能性が広がり、どれも弊社得意さまからのニーズに発しているの、いずれ多様な選択の中からどれかに収斂していくものと思われるが三笠のランマーとしての信頼性、耐久性、満足度を確保して行くべきものと思っている。

紙面の都合上お解りにくい点はお許し願います。今後とも一層のお引き立てをお願い申し上げます。

われた。

開会に先立ち三井社長が挨拶に立ち「景気は穏やかに回復しているが、建設業界を取りまく状況は一段ときびしくなっている。しかし、今まで以上に努力し一人一人の営業マンがニューナカミチとして誕生するような感謝の展示会として、まずは成功いたしますように参加して頂いたメーカー各社のご協力をお願い致します。」と社長自らニューナカミチをアピールされた。

展示会では、お客様に展示会を楽しんでもらう企画が盛りだくさんに用意され、スタンプラリーをはじめとして屋台村や、新春にちなんで初夢探しゲーム、はたまたバナナの叩き売りなどが催された。

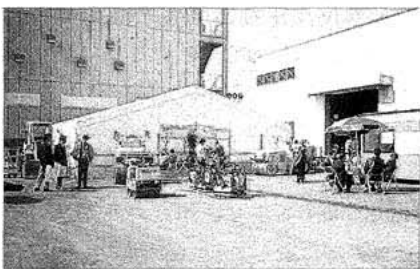
二日間で約500名様のご来場を頂き、三笠コーナーでもマイコンパイプレーターをはじめ分離給油ランマーMT-63HS、ガソリンランマーMT-50FやMVH-303DS等々を多数ご成約を頂きました。

永年三笠製品の拡販に絶大なるご協力を賜り、営業マン一人一人の力を見せつけられた展示会でした。

中道機械産業(株)様の三井社長様をはじめ北関東営業部の各営業所の所員の皆様の日頃のご努力に感謝し、今後ますますのご発展を祈念いたします。

高崎営業所 大沢記

北海道に春を呼んだ…… '97オープニングフェア



すっかりお馴染みになりました三笠産業(株)札幌営業所の一大イベント三笠サックス60「'97オープニングフェア」が3月18日、19日の二日間にわたり盛大に開催されました。

今年は三笠創立60周年のめでたい記念すべき年でもあり、営業所倉庫内だけでなく、外にも大型テントを設置



し、例年以上の製品を取りそろえ、三笠製品のバリエーションの豊富さを見て頂きました。

私たちもいろいろな展示会に出席しておりますが、準備する側は商いを含め、商品を理解して頂く為に展示し、ご来場される方も、自分の仕事に良い物、プラスになる物を探しに来て下さると思います。「オープニングフェア」もその趣旨で開催しておりますが、もっと一步踏み込んだ、三笠産業という会社の方向性や社員の熱意、人間性をも展示し、総合的にご理解を頂けるようなそんなオープニングフェアを続けていきたいと考えております。

ご来場の方から沢山のご注文を頂き、その上、今年度の見通しや方針も拝聴でき、ユーモアたっぷりの話術で会場に笑いの花を咲かせてムードを盛り上げて下さった方々に厚く御礼を申し上げます。

札幌課 丸山記

三笠クイズ VOL.25

【問題】タテとヨコのかぎを解いて1～5の文字をつなげると、春にちなんだ言葉が浮かんできます。さて何でしょう。

ヒント

ヨコのかぎ

- ア. 肉食せずに菜食すること。
イ. ボクはサッカーの選手になること。
ウ. サイコロを英語という。
エ. やりかけた勢い。○○○○上引くに引けなくなってしまう。
オ. 初夏を代表する魚。○○○の一本釣り。

タテのかぎ

- A. ○○○○を忘れて廊下に立たされた。
B. ○○遠目笠の内。
C. 自ら書くこと、または書いたもの。
D. ○○○の局は徳川家光の乳母。
E. 小銭がないので千円札で○○○をもらう。
F. 少し走ると○○が切れる。

1ア	B		C	
イ			3	
		オ		2
ウ		D		E
	F			
エ		4		5

【応募の方法】 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえご応募ください。正解者には抽選の上10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 101 東京都千代田区猿楽町1-4-3

三笠産業株式会社
「三笠ニュース」編集部

●締切り 1997年5月12日(月) 当日消印有効

Vol.24の答えは「フクワライ」でした。次の10名様に図書券をお送りしました。

中村豊治様(十和田市) 前田俊幸様(酒田市) 石川よし子様(甲府市) 竹原珍彦様(横浜市) 原野三枝子様(八女郡) 富沢初枝様(藤岡市) 荒井 徳様(須坂市) 山内和弘様(室蘭市) 梅崎恵美子様(大川市) 酒井みどり様(長野市)

いる。

ユーザーのニーズは軽量指向にある。この50kg級のランマーが従来の80、70kg級を押さえて需要のトップにある。しかしながら輾圧の仕事は多様である。締め固め能力、作業条件、利便性、経済性などユーザーの選択肢拡大の要求とともに弊社では50kg級、60kg級、70kg級、80kg級とオイルバスランマーを製作している。

低騒音型、電動型もある。いま弊社のランマーの特長は大きく分けて2点ある。

一つはWクリーナー型と称している二重エアクリーナー機構である。エンジンの生命はきちんとした潤滑管理とエアクリーナーの清掃維持の重要さである。一般的にエアクリーナーは放っておかれて汚れたままか、外されてしまい、エンジンの寿命を縮めている。オイルバス型からWクリーナー型にして清掃期間を伸ばすとともにダストを出来る限り少なくしてエンジンライ